

あかね

明石市立明石商業高等学校図書館発行



読書の すすめ

「本とインターネッ
ト」
校長 中嶋 修平

私が高校生だった時代は、まだインターネットもパソコンもなく、今と比べると読書に使う時間がたくさんありました。ウェブ時代になった現在でも、本の持つ価値は高く、読書を推奨したいと思います。

ウェブ上で得られる情報は、範囲の広さと速さで本を圧倒しているように思えますが、得られる情報の確かさは保障されるものではありません。何が正しい情報で何がそうでないのか、真偽を確認するのはある面で困難です。本の価値は、著者だけではなく編集者の手を経て精査された、適切な情報だけが得られるように編集されています。ピンポイントですばやく情報を入手できる便利なツールとしてイ

ンターネットを利用し、さらに深く正確な情報を得るために本を利用するといった両方の利点を使って、より多くの知識を得て考えを深め、読書による力、勉強による力を将来の生きる力につなげていってほしいと思います。

楽しい思い出いっぱい
高校生活を！
事務局長 池田 一峰

「藍 父から娘へ
旅立ちのメッセージ」
宮里 優 アスク

高校3年生のときにプロゴルフツアーで優勝し、プロゴルファーとなった宮里 藍さんのお父さんがどのように子育てをしてきたかを記録した内容です。将来どのような夢を持ち、その実現のために今をどのように悔いのないものとするために参考になればと思います。また、どのようにすれば誰からも愛され尊敬される人に育つか、とい

う点についても、みなさんが将来、親になったとき、また、会社に就職して後輩ができたときなどに役立つものだと思います。ゴルフをする人もそうでない人も、これを読めばきつと夢と誇りをもつて生きるすばらしさをあらためて感じることでしよう。

(期間限定で図書室に置いておきます。)
「オフサイド(漫画)」
堀内 夏子 講談社

弱小サッカー部の成長を描いた青春スポーツ漫画です。サッカーに興味のない人も楽しく読めると思いますよ。

みなさんの高校生活がすばらしいものになりますように！
(期間限定で図書室に置いておきます。)

「古典」を読む
教頭 伊藤 雅弘

インターネット専門の生命保険会社ライフネット生命保険を立ち上げた出口治明氏は、学

生時代、恩師からこう教わったそうだ。「古典を読んで分からねければ、自分がアホやと思ひなさい。新著を読んで分からねければ書いた人がアホやと思ひなさい。」
「古典」を英語で言う「classic」classicとは「級(class)」が最高の、即ち「一流の」というのが元々の意味だ。classicに「古い」という意味はない。シェークスピアや「源氏物語」ばかりが、「古典」ではないのだ。そういう意味では、ノーベル文学賞の期待がかかる村上春樹氏の作品なども、「古典」と呼んで良いのではないかと私は思う。

「一流」という評価を得るには、歴史や市場の荒波をくぐる必要がある。そうして生き残ったものにこそ普遍的な価値が宿っているのだ。出口氏はアダム・スミスの「国富論」について、「書店に並んでいる数多の現在のビジネス経済書ではないか」とまで言っている。

明商図書館には「古典」と呼ぶにふさわしい本がたくさん揃っている。ぜひ、図書館へ足を運んで「古典」に親しんでほしいと思う。

「日本人の9割に英語はいらない」英語教育の力モになるな

成毛 眞 (祥伝社) 進路指導部

池田 崇

英語が嫌いな生徒は多いです。しかし英語の勉強をする理由を一人でも考えて欲しいと思うので、この著書を紹介したいと思います。英語教師も「納得」と思うところがありますが、今回は一つだけ。「英語以上に、自国の歴史や文化を知っているほうが重要なのである。」さて皆さんはどのよう

社とお寺はどうちがうの」「忍者はいるの」「どうして日本人はキリスト教徒でもないのに、クリスマを大切にしている」など様々な質問を受ける意味全ても日本の文化です。私自身時にギョッとしながら、自分の知識と経験と友人の力でこういった質問をクリアしてきましたが、全てが正しいかどうかいまだに勉強中のところもあります。ただその場で「don't know」と答えれば会話が終わってしまいます。会話が終わってしまうことはとても寂しいことですね。英語が嫌いな生徒が多いと明商に来て思いますが、どんな教科、科目でもどうせ勉強するものであれば、勉強する理由まで一度考えてもらえると、勉強するためのきっかけになるのではないかと思っています。嫌いな英語をどうして勉強するのか、一度考えてみてください。

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」

著者 岩崎 夏海 三年五組担任

内間 正史

この本は一時、日本中で話題になりました。というのが、ドラッカーの『マネジメント』という本はとて難しく、わかりにくい内容だったのが、高校野球の女子マネージャーの目を通して、ところどころ勘違いはあるにしても、非常にわかりやすく書かれているからです。もちろん、高校野球の女子マネージャーの視点なので、野球部内の人間関係なども絡んできます。が、人を動かす上でとても重要になる。「マネジメント」の考え方について、非常に親切丁寧に、時には例えなども交えながら書かれています。これは将来的にビジネス用の参考図書として読むもよし、気軽

に小説として読むもよし、人によって様々な切り口から入っていきける一冊だと思います。

この学校でお金の流れを学び、将来的にはどのような形であれ様々な人と関わっていくであろう皆さんにとって、この本は、人との接し方や、人をその気にさせる方法など、人間関係においてとても大切なポイントが書かれていると思います。この本を読んでも、少しでも良好な人間関係を構築していく一助になればと思います。

『ドミノ』

著者 恩田 陸 総務部 大塚 和希

「読書はしないだろう」と考えていた高校生時代の自分が、ふと面白そうと思っただけで『ドミノ』という本がおすすです。何に目を奪われたかというところ、本の冒頭で登場人物 28 人の自己紹介が始まるので、いきなり覚えられる

か!」と思っ読み進めていくとクスツと笑える部分が多かこかにあります。

簡単な内容として、「俳句好きの元警察官のおじさん」「オーデションを受けにきた子役たち」「上司に頼まれお菓子探しをする女性」など自分の目的のために動いている接点のない人が、東京駅を中心に交錯していくというものです。初めは、小さな「偶然」から大きな「偶然」へと繋がるため一気に読んだことを覚えて

います。おすすめた理由として、その本に出てくる【すべての事象(出来事)は偶然(偶然)は必然】という言葉が共感でき、今でも好きだからです。皆さんは、登場人物 28 人より多くの人と出会っているはずで、その中で、「何で今??」「何で自分が?」と思う事は必ず起こってきます。それをイライラして受け止めるのではなく「起こるべくして起き

にも読みやすく、そして一言で感想を言うと、感激したというしかない。我が家にも犬と猫がいる。下の子は、生まれた時にはもう家に猫がいた。猫は下の子のそばにいつもよりそっていた。小学生になった今でも不思議とそばにいる。言葉の交流はないけれど心が繋がっているような、そんな気がする。犬は我が家に来たときはとつてもおとなしかった。おとなしすぎて心配したくらいだった。人間の都合で狭いゲージに閉じ込められ、たらい回しにされ、人間を信じられなかつたんじゃないかと今では思う。今は家族の一員として愛されていることを自分で感じて、素直に自分を表現できるようなつたのではないかと思う。

犬と私の十の約束の一つ一つが、どれも心にグツとくる約束だった。そして我が家の愛犬ひみこと愛猫ごえもんにも、十の約束を守って大切にしていこうと思う。

「スポーツ速読完全マスターBOOK」

呉 真由美 著
生徒指導部 田口 潤

明商は、勉強とスポーツがとても盛んなので「スポーツ速読完全マスターBOOK」をお薦めしたいと思います。この本は、勉強・スポーツ・仕事など様々な分野で活用することができ速読トレーニングを紹介しています。まず、「速読」と聞くだけで難しく、めんどうくさそうと思う人がいると思います。時間が、呉さんの速読は、短時間で簡単にできるトレーニングです。普段の勉強・スポーツで用いない速読をすることで、脳の活性化と目の眼筋を鍛え、自分の能力の幅を広げることが出来ます。実際に、速読だけで自分の幅が広がるのかという疑問が出てくると思います。しかし、速読をすることで子どもからプロの選手まで効果を感じています。例えば、

「ボールが遅く感じる」、「視野が広がった」など。僕も呉さんの講演で速読トレーニングをする機会がありました。そのとき簡単な速読トレーニングをするスピードが上がり、短時間でその効果を感じました。

これから勉強やスポーツでいい成績を目指したいという人にぴったりに思うので一度読んで速読トレーニングを試してください。

「本」を開いてみてください
「つ」
事務局 竹田 諭子

ここ最近忙しさにこつつけて読書という習慣どころか本屋にすら足を運んでいないことに気づきました。ネットで簡単に専門書から雑誌まで買えてしまう便利さに甘えてしまい自分の足で目的の物を探し出す楽しみを忘れてしまっていたようです。皆さんは好きな作家、

好きなジャンルはありますか？
歴史、特に戦国、幕末が好きなのは小、中学生のころ歴史小説に夢中になりました。司馬遼太郎はそんな私を虜にしてくれた作家のひとりです。独特な言い回しに小難しいフリガナのない漢字。読みながら分からない言葉や辞書で調べ、自然と国語の勉強にも繋がっていたと思います。

この頃は古本屋に足を運び初版本を探し出すというなんとも子どもらしからぬ趣味を持っていました。実家に帰り久々に本棚を眺めるとその時に集めた「翔ぶが如く」が鎮座していました。手に取り開いてみると埃っぽい匂いが鼻をくすぐり、懐かしいような寂しいようななんとも寂しい気持ちになりました。

冒頭で挙げたように本がネットで買える今、電子書籍も流行り手軽に読書を楽しめることだと思えます。ただ自

分で目的の物を探し出した時のなんとも言えない達成感や嬉しさ、紙をめくる感触や音、そして匂いを感じられなくなるのは少し残念な気がします。

皆さんには、気に入った作家、ジャンルがあればぜひ一冊「本」として手元に置き、時々開いてもらえたらと思います。話の内容だけでなく色んな思い出が溢れ出てくるのではないのでしょうか。

最後に、大河ドラマで「軍師官兵衛」が放映されていますが司馬遼太郎も「播磨灘物語」で黒田官兵衛の生涯を描いています。興味を持たれた方は一度手に取ってみてください。

ひゃくはち(早見和真)
【集英社文庫】

二学年学年付き

長廻 大

名門野球部の補欠メンバーが主人公のお話。高校野球を題材とした

作品であるが、「補欠」メンバーの視点で描かれていたためか、「強豪校の補欠ならこのようなことを思っている者も少なからずいるだろうなあ。」と思わせる発言や行動が盛り込まれているので、非常に楽しく読める。一生懸命のようでもどこか狡賢い主人公に惹かれてしまう小説です。

映画化もされた作品ですが、小説と映画の見せ方に違いもあります。どちらの「ひやくほち」が好きかは読者(視聴者)によって異なると思います。しかし、小説は取材を重ねて描かれたものであるが(フィクションではあるが)、高校生が読むには共感できる部分も多く読みやすいものだとおもいます。

またこの小説を読んで、タイトルがどうして「ひやくほち」なのかもわかります。野球関係者なら知っていて当然のことですが、そうでない人が読めば「へえ、そうなんだあ。」ということだと思います。そのこと答えを知

りたい人も、読んだことがない高校生も是非読んでみてください。

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著

一年一組副担任

西 真未

今私はこうして明商で教員をしています。今のみなさんと同じ高校生だったときがありました。眠い目をこすりながら制服を着て高校に通い、勉強もしました。に励み、恋愛もしました。しかし誰しもが時を経ると大人になるように、私も様々な経験をしながら大人になりました。でも考えてみてくださーい。大人になるといふことは一体どういうことなのでしょう。仕事をすること?好きなもの?好きなだけ買うこと?保護者の承諾なしに携帯電話を買うこと?それは決して素晴らしいことばかりではないかもしれませぬ。私たち大人は、たくさんの

ものを得ると同時にたくさんのもを失っているのです。そして現代社会が生み出した、お金・時間・地位・名誉など色々なものに縛られて生きています。『星の王子さま』はそんな現代社会に生きる私たちに、本当に大切なものとは何なのかを教えてくださいます。『星の王子さま』は言います。「心で見なくちや、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」

「大人」になる前にこの本を読んで、心の目を通して本当にか大切なものとは何なのかを明商の皆さんが見つけれられるといいなと思います。

「さおだけ屋はなぜ潰れないのか?」

山田真哉 光文社新書

一年三組担任

林 諒平

「たーけやーさおだけー」誰もが一度は耳に

したことのあるメロディでしょう。しかし君たちの家で、さおだけ屋からさおだけを購入したことの人はいますか? (さおだけというの

は洗濯物を干すための長い棒です) おそらくほとんどいないと思います。では、なぜさおだけ屋は潰れないのでしょうか? この疑問を解決してくれるのが、この本です。さおだけだけでなく、高級フランス料理店、麻雀、自然食品店、ワリカン、キャッシュバックキヤンペーン、この本では様々なポイントから会計を学ぶことができます。

君たちが明商に入学してから習い続けている簿記や会計。この本を読むと君たちが勉強してきたことの意味が少しわかるようになるかもしれません。この本は私が高校生の時、担任の先生から勧められ読んだ本です。少し難しい内容も入っていましたが、理解できたので君たちにも読めると思います。二年生や三年生は時間

をかけて勉強した知識を社会に出て役に立つ武器に変えるために、一年生はこれから勉強するものの導入に、是非この本を読んでみてください。

『永遠のゼロ』

百田 尚樹

一年六組担任

平峯 康二

作者の百田尚樹は放送作家・小説家であり『探偵! ナイトスクープ』放送作家としても有名で、この本は映画化もされました。この本は現代社会に置き替えることができ非常に面白い。物語は姉弟が戦争中の祖父について戦友から色々話を聞いていく中で姉弟の成長を描いている。ある戦友は祖父のことを『臆病者』と、またある戦友は『天才パイロット』と表現する。一つの事でも色々な見方があることや、一人の意見(一つの側面)からでは決して判らないこ

ともたくさんあるといふことがある。この姉弟はとことん祖父の事を突き詰めたおかげで新たな考え、捉え方に気づく。皆さんはこれから社会に出ていく中で沢山の情報が溢れているが、しっかりとした情報をつかみ、正しい判断をして進んでいくってほしいです。もし姉弟が『臆病者』の祖父の情報だけをもとに祖父を判断していたら、祖父の素晴らしき人間性に気づけなかったらどう。この祖父の生き様も非常に魅力的に描かれている一冊になっている。ぜひ読んでみてください。

楽しく分かる！なら

読んでみよう

進学指導部

二見 育子

勉強は難しい。歴史の人物も一人を突き止めていくと本一冊分になる。大河ドラマにもなる。「清少納言ってどんな人？」と聞かれ

ば、「枕草子の著者」だけでなく、本名不明で定期考査等で関係ないことも知っていくことが勉強である。同じように「簿記って何？」となる「簿記」の簿記の「簿」を「薄」と書く人も中にはいる。「どうやって授業をしていこうかな」と悩んでいた時に出会った本が「とある会社の経理さんが教える楽しくわかる！簿記入門」である。なんといっても「楽しくわかる！」のだから勉強してみようと思う。読みやすく、分かりやすい。「授業で使おう」と思う。しかし、「学習したことを忘れてしまうのは当たり前」とも書いてある。のしかし、「記憶というの

は繰り返し塗り重ねることによって定着する」と書かれてある以上、凡人の私には納得である。現金の増加は借方、減少は貸方……ということとを、早くに解けるようになっただろう。塗り重ねた結果である。しかし、「企業会計原則」

となれば、すぐに忘れる人も多いのでは。減価償却の説明も掘り下げられて、競走馬は耐用年数四年、豚は三年、柿の木は三十六年とまで書いてある。よほど興味がないと知る機会はない。最後に「自分を成長させることができるのは自分だけです。」とある。いろんな先生方がうるさく言い、本にも書かれているということは、大事なことです。よね。

『9割がバイトでも最高の感動が生まれるデイズ』

二のホスピタリティ

保健部 増田 愛菜

この本はあの有名なデイズニードでの話です。デイズニードってのホスピタリティ（思いやり・おもてなし）とは、「相手に対する主体的な思いやり」。このホスピタリティがどう育てられているのか、を具体的なエピソードを

交えながらまとめられています。そのホスピタリティが発揮されたエピソードをひとつ紹介しましょう。ショップで売られている商品のぬいぐるみ。これが東日本大震災時の防災のアイテムとして用いられました。震災直後、あるキヤストがすぐにおびえている子どもに、商品のぬいぐるみを手渡して「防災頭巾にしてね。きつとミッキーマウスが守ってくれるよ。」と声をかけたそうです。

まさにデイズニードのホスピタリティが力を発揮した場面です。声をかけたキヤストはアルバイト。しかも、そうするよう上司から指示を受けたわけではありません。そういったキヤストを育てるような仕組みがデイズニードにあるからこそできたことです。その育て方とは。それはとても基本的なことであり、特別なことではないそうです。そのポイントが書かれています。もう一度基本に立ち返って、人間関係について

て考えたい人にはおすすめの一冊です。

『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』

著者 増田 俊也

教務部 山本 高士

史上最強の柔道家といわれる木村政彦の生涯を書いた本で、明治、大正、昭和、平成にかけての柔道史と世界の総合格闘技や空手、合気道柔術、プロレスなどの歴史にも触れられ、日本の現代へつながる格闘技の歴史を知ることが出来る。木村政彦は、昭和十二年から全日本選手権を十三年連続で勝ち続け、「木村の前に木村なく、木村の後に木村なし」「鬼の木村」と讃えられた。

この本のすごいところは、ただの「木村政彦の伝記」にとどまらず、柔道や総合格闘技界のトップが彼の強さについて率直に語っている事や、柔道を始めとする武道家、格闘家というも



の「強さ」を求めて稽古や修行に励んできたかを知ることができる。また、木村政彦と関わった人たちを通じて、戦前、戦後の柔道界や格闘界の裏側にも光を当てている。

柔道といえば「講道館」であるが、戦前には寝技を重視した「高専柔道」の存在があったことや、「きれいな一本を取る柔道」が美化されている現代で、「本当に実践で役に立つ格闘技」から離れていってしまったという率直に述べられている。「骨太なノンフィクション」であり、格闘技好きならこの本をぜひ読んでもらいたいと思う。



図書館より

五十九回生の皆さん、卒業おめでとうございませう。恒例の卒業式前の三学期がそろった年間ランキングです。

《個人貸出数》

1位	2の3	Sさん
2位	1の4	Oさん
3位	2の8	Sさん
4位	3の5	O君
5位	1の4	Aさん
6位	商業	O先生
7位	3の8	M君
8位	国語	K先生
9位	1の4	Kさん
10位	1の4	F君
11位	3の1	O君
12位	体育	T先生
13位	養護	T先生

13位	1の1	O君
13位	2の6	Mさん
13位	3の8	H君
17位	社会	K先生
17位	国語	M先生
19位	商業	T先生
20位	1の2	Kさん
20位	1の2	Kさん
《クラス対抗読書数》		
1位	1の4	(240冊)
2位	2の3	(156冊)
3位	3の5	(84冊)
4位	2の8	(69冊)
5位	3の8	(46冊)
6位	1の2	(41冊)
6位	3の1	(41冊)

8位	2の6	(24冊)
9位	3の3	(18冊)
10位	1の1	(16冊)
10位	3の6	(16冊)
12位	2の1	(12冊)
13位	3の4	(9冊)
14位	3の2	(7冊)
15位	2の5	(6冊)
16位	1の3	(4冊)
16位	2の2	(4冊)
18位	1の7	(2冊)
18位	1の8	(2冊)
18位	3の7	(2冊)
21位	1の5	(1冊)

(二月五日調べ)



編集後記

「あかね」第一〇八号をお届けします。《読書のすすめ》には、おすすめの本の紹介や感想だけでなく、読書体験にまつわる思い出やエピソードなど、様々な切り口で語ってくださった原稿が集まりました。執筆の先生方、どうもありがとうございました。生徒の皆さんの新たな本との出会い、そして新たな世界との出会いのきっかけになりますように。ご紹介のあった作品中、明商図書館には「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」、「飛ぶが如く」、「播磨灘物語」、「さおだけ屋はなぜ潰れないのか?」、「永遠の0(ゼロ)」があります。「星の王子さま」はコミック版が所蔵されています。また、今年度の貸出に関するランキングを掲載しました。貸出数上位図書はラインナップに少々複雑な思いも……。 (図書館長)